

Original Hand Made Lure1

ビッグゲーム・ルアー入門

西崎 国光

by Kunimitsu Nishizaki

協力：奥田洋三

今にして思うと、確かに市販のルアーは高価ではあるけれど、手製でルアーを作ったからといって格別安くなるものでもない。どう考えてみても、材料を搜したりルアーを作っている時間に、余分に稼いだ金でルアーを買って走る(別に走らなくなったっていいけどネ……)ほうがよっぽど安上がりだ。

それならばなぜ作るのかと言うと、これは自分が作ったルアーで魚が釣れる、もしくは釣れたという、まあ独特の快感があって、まして自分が作ったルアーで、自分で釣ったとなると、もう快感など通って特殊なビョーキになってしまうことが多い。

初めてルアーというもの(正確には、らしきもの)を作ったのは、トローリングをしていて、(そうだ、あの時はメジを追いかけていた)それ

手作リルアーに取り組んでおられる方が増えている。その手間と時間を考えれば、どうしてもマニアックな領域に入ってしまう、作った方がいいが実用には供しないという方も多い中、氏のルアーはあちこちのアングラの間で引っぱりだこである。

氏の友人に奥田洋三氏がいる。彼は西崎氏にルアー作りを学びつつ、既に彼独自の世界を構築している。奥田氏のクロカジキ194.5kg(80Lbテスト)は58年7月9日にその記録が達成されて以後、59年5月26日の一條邦彦氏の記録(211.5kg)に破れるまで、日本記録にその名を

とどめていた。ただ、奥田氏の記録は、自らのスモールボートで、自ら作ったルアーで達成されたものだけに、いつまでも記憶に残るものとなっている。

西崎氏のルアー製作過程がまったくの手作りなのに対し、奥田氏のそれはエレクトリック工具を駆使したものだけに、その完成に要する時間等には大きな開きがある。両者ともに独自の信念でやっているものだけに興味深いが、奥田氏のルアー製作の過程も、近くこのページで紹介し、あなた自身の独自の方法を確立してもらえれば幸いである。

でもって、メジ(めじまぐろ、マグロの幼魚)を釣るにはルアーヘッドは黒か茶色がいいなんて釣具屋で言われて、そうだろうなあと、プラスチックのルアーを何となく使っていたのだが、それなら昔から漁師が言うように、貝の方がい

いかなあ……、と思って、手元にあったアワビの貝がらでルアーを作ってみた。

そこで、確か、スカート(海釣りルアーヘッドには、スカートと呼ばれるビニール製の「タコ」をつけます)はグリーンにしたと思う。

■道具

●万力 ●電気ドリル(必ず変速機構のついてるもの) ●糸のこ(金工用で精度の高いもの) ●鉛工用ヤスリ(木工用、プラスチック用でも可) ●金ヤスリ(大、小。他に丸ヤスリ等) ●鋸刃(金工用スリ目No.6~No.5、他にヘラクレス鋸No.5など) ●砥石(金鋼砥石、荒砥、中砥、仕上げ砥石) ●耐水ペーパー(100#, 240#, 600#, 1200#) ●コンパウンド(ラッカーコンパウンド、細目。塗料店にあり) ●

粘土(水性) ●油粘土

■材料

●真鍮パイプ(リーダーを通すためのパイプ) 外径4mmφ、ジェット・ルアー用は外径5、6、7mmφ。購入先/鉄道模型店、ホビーショップ(東急ハンズ等)、彫金材料店、専門店。
●鉛
●貝
白蝶貝、夜光貝(白色)、メキシコ貝(赤緑)、マベ貝(茶)、黒蝶貝(茶緑)等は、なるべく表

面が磨かれているもの。購入先/釣具店、インテリア・アクセサリ店、専門店。

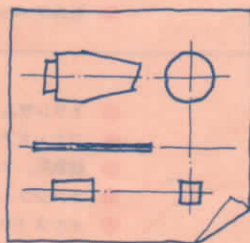
●ポリエステル(不飽和ポリエステル) 常温硬化型3液性(塗料店に依頼する場合は、透明度の高いものを指定して下さい。購入先/ホビーショップ、塗料店)

●メタルペーパー

キラキラ光る銀紙のようなもの。購入先/釣具店等。

●その他

●図面をつくる



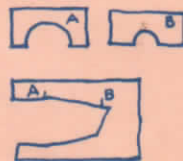
○内に入れる材料の寸法決定

○鉛位置、及び重さの決定

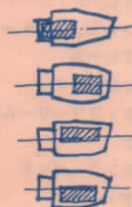
○色の配色、ヘッドカットの形状

○ここでしっかりと計画をたてないと、後で削ったり磨いたりする際に中に入れたものが露出することがあります

○厚紙・塩ビの板などを使用して下のような型紙を作っておくと便利



○鉛の位置によって水中での動きが違ってくるので研究してみてください



ポリエステルルアーの作りかた

それで、釣れたか、と言うと、釣れました。
目からウロコが落ちるなんて言うでしょ、ま
ったくそれ、それ！ 自分で作ったルアーで魚
が釣れるなんてことは、正直言って、あまり期
待していなかったからネ……。

それから少したって、キャプテン（現JGFA
会長の大西英徳氏）は、徐々に大きい魚を狙う
ようになり、そのすべてがルアーであったこと
から、「ルアーって何だ!?」と、この段階から少
しばかり興味を感じたのである。

ルアーについては、やれ牛の角、白丁貝、夜
光貝、いや、あれがいいこれがいいと、何か何
だかさっぱり分からず、とりあえずそのあたり
のもの、使用しているものでどういったものが
釣れるのか観察していたものの、それでもよく
分からなかった。まあ素人だから仕方が無いん
だヨネ。

そんな時、ハワイのマニアが作ったというハ
ンドメイド・ルアーを見せられ、思わずウーン
と唸ってしまった。

それはとても巧妙にできていて、いわゆるジ
ェット・ルアーと呼ばれるもので、ルアー・ヘ
ッドには4本の孔があいていて、しかも白丁貝
と黒丁貝がプラスチックで封入されており、お
まけにルアーの中央部にはプラスチックの軽さ
を押さえるための鉛まで入っていた。

ウーン、と唸った後、ふうん、そかそか、こ

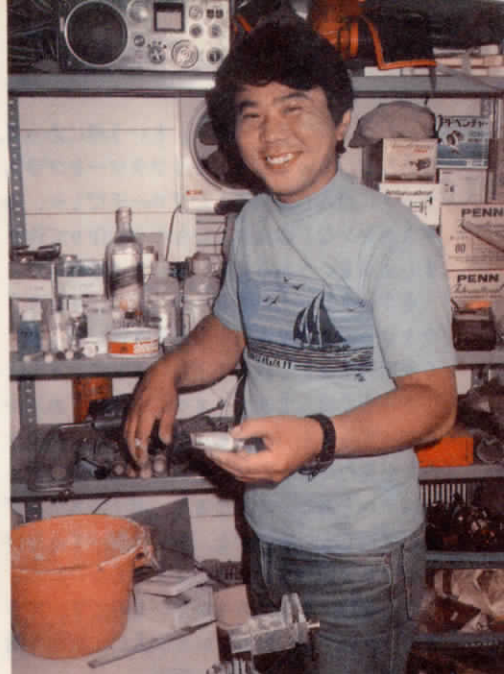
れなら自分でも作れるんじゃないかなと考えた。
まあ、それからというのは、一種のパニック
に陥ってしまった。なぜその時、自分でそれ
を作ろうと思いつめてしまったのか今でもよく分
からないけれど、多分、今までに見たこともな
い形のルアーを見て、またそれでウンと魚が釣
れればといった気持ちと、こういった素材なら
アレンジが自由だから、自分の好きな形のもの
も作れるなあといった、その両方の気持ちだっ
たような気がする。

さあそうすると、どやって作ろうか、どやっ
て、どやって!?と、アタマの中がお祭り騒ぎと
なって、ユーと、貝だとか鉛、パイプなどの入
手、加工は何とかなりそうだけど、プラスチッ
クをどうしようかと考え込んだ。

いつか、ずいぶん以前に、デパートのプラモ
売り場かなあ、教材売り場かもしれないけれど
四角でサイコロ状の透明プラスチックに封入さ
れた昆虫の標本があった事を思い出した。

それっ！と、デパート3軒廻ったけれど見つ
からない。すこし頭に来た。こうなったら徹底
的に探してやろうと、ますます頭に血がのぼっ
てしまった。

この逆上する性格、結構、釣り人に多いのよ
ネ、釣れなくて海をひっかき回している人、よ
くいるもんね。ああいうのを見ると、実際、楽し



奥田氏の笑顔、この笑顔についてすべてを許してしま
う。しかし、原稿はキチッとお願いしまっせ！

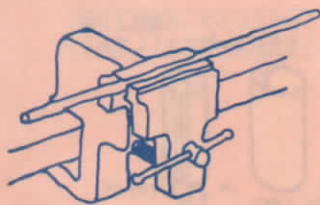
くなっちゃう。

それで、その頃出来たばかりの『東急ハンズ』
に行ってみたら、何と簡単に見つかってしまった。
その後、しばらくして、こういうものは意
外と別のところでも扱っていることが判明した。
なあんと、塗料店でも扱っていて、そこで取り
寄せてくれるのだ。

それはともかく、『東急ハンズ』では、それ

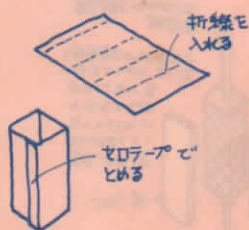
●パイプを切る

パイプを万力ではさみ 糸ノコ（スリ目
No.5）で切ります。1/3まで切れば手でカ
ンタンに折れます



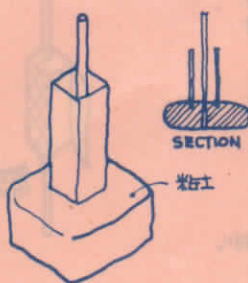
●鉛の型枠を作る

ボール紙で可



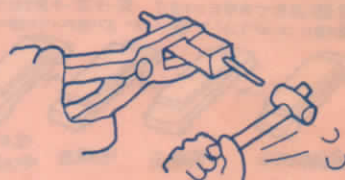
●鉛を鋳込む

粘土（水性）にパイプと型枠を差し込
み、溶かした鉛を流し込む

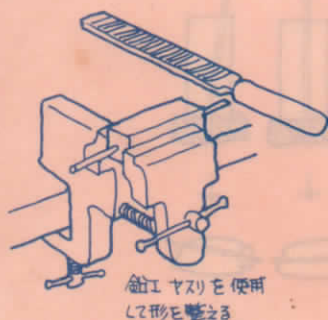


●鉛位置の調整

型枠は水の中ではがすとすぐ
とれます
中心のリーダーパイプをた
たけば位置の調整ができます



●重量・配分の調整

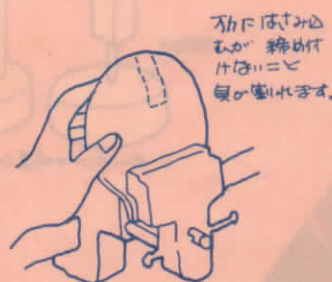


●貝を使用する場合 貝の加工法

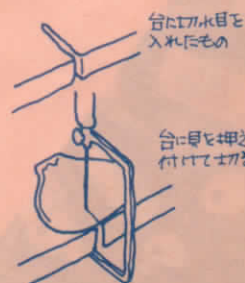
- 表面を磨いた貝を使用する場合
切断 → 切口などの処理
- 表面が磨かれていない貝の場合
切断 → 研磨 → 切口処理

●貝を切る ①

糸鋸+金工用スリ目No.6 又はヘラクレスNo.5



●貝を切る ②



はいわゆる『手芸コーナー』という所であって、なあと、ちっちゃなドライフラワーをプラスチックに封入して研磨したブローチだとか、カフスボタンなどの女々しいものを手作りして作りましょうというおぞましいコーナーであった。

そういうコーナーであるからして、インストラクターのような人（もちろん女性）が、優しく使用方法などを教えて下さいまして、ええ。

さっそく買ってきて、まずこれは何であるかと調べてみると（調べるって、ただ缶のラベルを見ただけなんだけど）缶には不飽和ポリエステルとある。こうなると、ポリエステルであれば何でもいいのかと、少しは調べてみなければならぬまい（などとはあまり考えない）。

そんな時、友達はあるかいたいものです。プラスチックの工場に勤めている友人に、根掘り葉掘り聞くことでこの問題は解決。

いわゆる『ポリエステル』と呼ばれるものもその使用目的によって千差万別であり、FRPと呼ばれる、ボートなんかのハル（船体）に使用されているプラスチックもポリエステルであることが分かった。

このポリエステルというものは、普通、常温から高温で硬化し、低い温度での硬化は得意ではないらしい。確かに、冬、こいつは臭いが強いので（シンナーの臭いだと思って下さい）マシンのバルコニーに出しておいたら『ひび

割れ』が入ってしまって、使いものにならなくなってしまった事がある。

プラスチックの話はそのくらいにしておいて次にパイプだとか、その他の材料をどうするかを考えよう。

まずルアーの中に入れる貝の加工だけど、2



つの作業がある。ひとつは貝を研磨することであり、ひとつは貝を切断することである。

これは何も貝とは限らず、自分の好きなものを入れればいいのであって、私もプラスチックのカガミを入れたり、金属片を入れることがある。

なぜ貝を入れるのかと言われれば、ただ見映えがするからとしか言いようがない。もっとも貝の加工が最も困難であるから、貝の加工方法

を知っていれば、それを他の材料にも応用できると思う。

さてそこで、貝を加工する場合、貝を切断してから研磨するか、研磨してから切断するかというと、これはもう、先に切断する方がはるかに楽である。

私の場合はこの工程が面倒なので、すでに磨いてあるものを使用する、これもインテリア・ショップなどにある、貝で出来た灰皿なんかで充分。なんせ磨いてあるしラクだもんネ。

どうしても気に入った貝を使用したい場合には研磨もするけど、めったにしない。

貝を切断する場合、私の場合は、研磨する前に金属用の糸のこを使用して所定の大きさに切断する。この方法は確かに時間はかかるが、なんせホコリがほとんど出ない。急ぐ時など、たまにグラインダーを使用するけど、その時の貝の粉ボコリはすごいから怖い。決して部屋の内ではやらない方がお利口、カカアにぶっ飛ばされる事は間違いネエから。

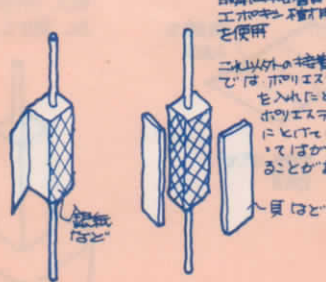
なぜかという、貝を削った事のある方はもう分かってますヨネ。そう、貝を切断する時に出る粉の粒子がうんと細かくて、扉を閉めていても隣の部屋まで、たとえばテーブルの上にまでうっすらとこのホコリがたまることになるのです。こんな作業を、世の女房族が黙って見逃す訳がない。

●貝を磨く

磨いてあるものは鋸で切った切口のみ磨く



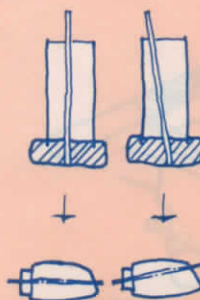
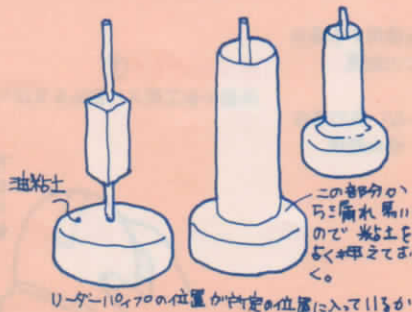
●芯材に銀紙・貝などを貼付ける

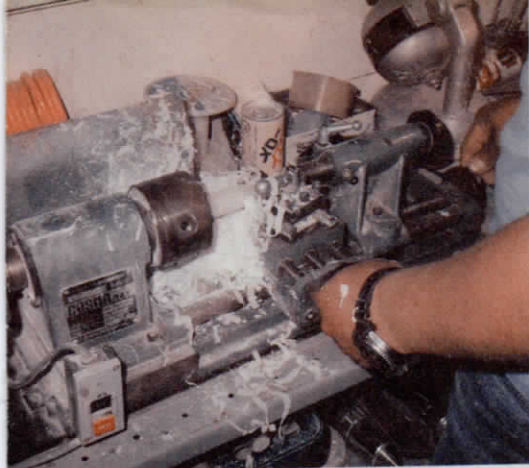


●ポリエステル用型枠を作る



●芯材 型枠を油粘土に差す





工具の扱いは手馴れたもの



やはり水に浸してやるべきですナ

普通、貝の表面（外側）はゴツゴツしているけれど、これを磨いてゆくと虹のように光沢のある層が出てくる。

この部分をルアーヘッドに封入する訳だけれどどうやって磨くかと言えば、やっぱりここはグラインダーがてっとり早い。その後、水ペーパーの400番あたりから徐々に番手の高いものを使用して磨いてゆき、最後は1,000番か1,200番、その後ラッカーコンパウンドか金属磨きで磨けば、もう真珠のようになってしまう。

ここでも、私の場合はホコリはいやだと、かたくなにグラインダーを拒否するのである。

では何をを使うかと言うと、砥石を使用するのである。砥石の中でも、最も粗いやつといえばこれは金剛砂砥石と呼ばれる、本当にヤスリのようなザラザラのやつである。

これならば多少能率は悪くても、水を使うのでホコリはみんな水の中。

次にパイプであるが、こんなパイプを使わなくても、リーダーを通す孔など後からドリルであげればいいのに、とそう思うでしょう。ところがどっこい、これが意外と大変なんだ。第一、センターにきっちり入れることが出来ないとは言わないけれど、私なんかじゃあとても難しくてゴメン。

このパイプの入手先は今でもよく分からない。

扱っている業種がどこなのか、何なのか、はつきりしない。

東京ならいろんな専門店があるから、探せば何とかなるけれど、私も人から聞いて浅草橋の金属問屋街を半日歩いて見つからず、ふと思いついて、隣の秋葉原のジャンク屋さんに行つて、自動車につけるラジオのアンテナを買つて利用した事がある。あのアンテナは便利なんだ、なにせ上の方が細くて、下に行くに従つて太くなって行くから、1本でいろんなサイズのパイプが取れるんだ。

だけど、ジャンク屋などというものが今だに秋葉原などという所にあるからいいんであつて正規の値段で買っていたのではたまらない。

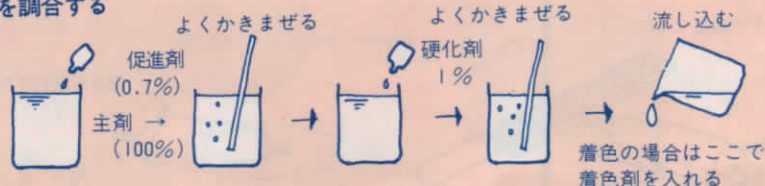
多分、鉄道模型を扱っているところにはあると思う。

さて、それでは私のルアーはどうやって作るかは、図と説明を見ていただくとして、ここでは、図と説明以外の補足をいたします。

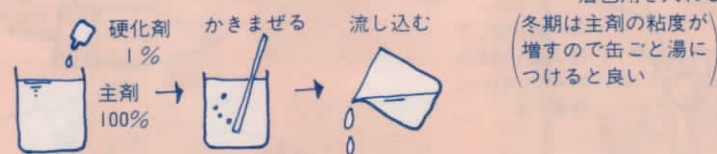
これから先は、まあ殆どウソというか、そうじゃないかなあと思っている事なんだけれど、それで奥田洋三さんでもつかいカジキを釣ってきたから満更でもないような気もするが、インチキに近いというのも事実です。ただ、多少の経験と実績を屁理屈で味つけただけの話です。

●ポリエステルを調合する

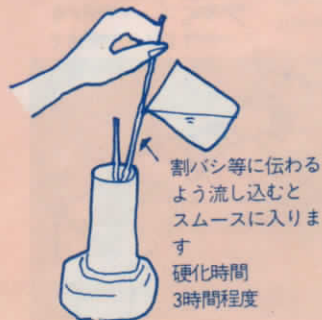
○3液性



○2液性

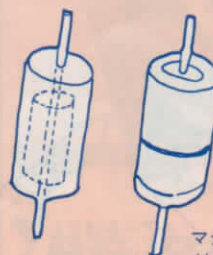


●ポリエステルを流し込む

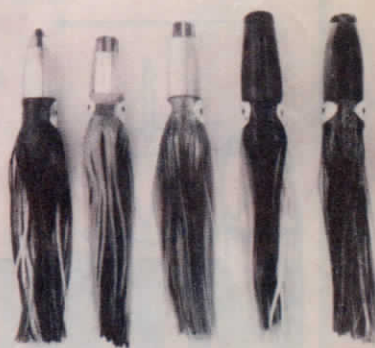


- 硬化剤が多い場合早く硬化しますが
 - 外部内部にキ裂が入ります
 - 内部に泡が残ることがあります
- 硬化剤が少い場合硬化が遅れ
 - 内部に入れた貝及びシートの接着剤がポリエステルで溶けて脱落するものがあり又、塩ビ系のものは溶けることがあります

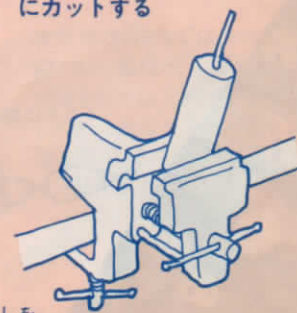
●型枠をはずして削る



マジックインクでしるしを付ける



●万力ではさみ、糸ノコで大きざっぱにカットする





パイプの穴の通りを確認する

●なぜ、ルアー・ヘッドの中にパイプを通すかというと、パイプに鉛をつけたとき、重量バランスが取りやすいのだ。

●決して色なんかじゃない。ルアーというものは動きが肝要だ。だって、溪流ではスプーンみたいな、魚の形と関係のないようなものでも釣れるじゃない。

●ルアー・ヘッドの先端を前として、上下・左右の重量配分をなるべく同じように、鉛を削って調整します。これによってどうなるかというと、多分こんな事じゃあないかなと思うのは、ルアーの前後は別として、ヘッド・カットの形状がカットによる『特徴的動き』をよくルアー

に伝えるように思うんだ。

●ヘッドのカットについては、昔からあった砲弾型、コナカット、ストレートにカットするもの、それぞれ独特の形状と独特の動きをする。そこで、独自のヘッド・カットによる最高の動きを求めるのだ。

そこで、さあどうやって自分の好きな動きをルアーで出すかというと、これは内証。と言うよりも、もう6年以上ルアーを作っているけれど、よく分からない。

ルアーの先端のカット面積を広くした方が良く動くかというところでもない。ジェット・ルアーといわれるものについては、むしろ先端を細く絞り込んでいった方がよく動く。

ただ、どういった動きがいいのかと言うと、これは一概には言えない。どうしてかと言うと例えば対象魚によっても違うかもしれないし、海の状況によっても違うかもしれない。

だけど、これだけは言えることだけど、本当に良く出来たルアーというのは確かにあって、そういったルアーが今までに何本か出来たことがある。

実際、私達が“Na.1ルアー”と呼んでいたルアーがあって、忘れもしない1982年5月23日、ロッドのガイドにラインがからんで、見事Break Line !! Na.1ルアーとは、これでおサラバとってしまったものの、このルアーは実によく

ヒットしたルアーであった。

このルアーは偶然できたといえようがない、どちらかという失敗作であったが（なぜなら、その当時はまだ貝の光りが一番ルアーにとって有効だと思っていた時期なんだけど、何を間違えたか（多分、酔っ払っていたんだ）きれいに光る方じゃなくて、貝の裏側が表面に出るように作ってしまった）荒天であろうと潮目であろうと、もちろんベタ風の時でも海面にピッタリと吸いついて、波頭から飛び出すこともなく、実に生き生きと動いていた。

●ジェット・ルアーというのはヘッドに穴が貫通していて、水流がその穴を通る時に音が出てそれで魚が寄ってくるかと言うけれど、私はまるで信用しない。

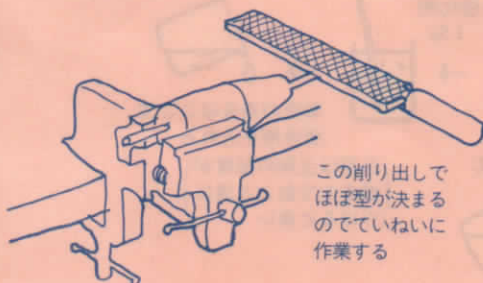
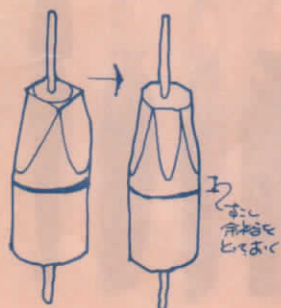
●色が良から魚が来る。これもあまり信用しない。傘の柄のような、光らない、余計なカラクリも無いルアーで立派にカジキを釣った例もある。どれほど立派なルアーであっても、魚を何マイルも先から呼ぶ力は無い。

言ってみればあたり前の事だけど、魚がいない所をいくらトロリングしても釣れる訳が無い。

ルアーというものは、あくまで、シーズンオフ、暇にまかせての独楽であり、来たるべきシーズンに備えての夢と思うべきである。

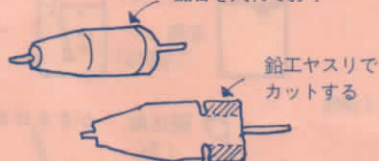
●鉛工ヤスリ・木工ヤスリ等で整形する

ときどき型紙をあててみる



●スカートをつける溝をつける

鋸目を入れておく

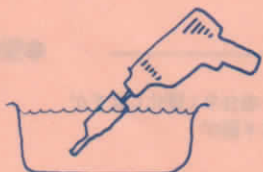
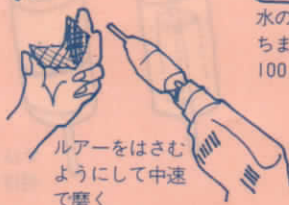


●ポリエステルを磨く

ドリルに差込む



耐水ペーパーを2つに折る



水の中でみがくとほこりがたちません

100#—240#—600#—1200#
前のペーパーの目が消えたら次のペーパーに移ります
あまりペーパーをかけすぎると所定の大きさより小さいものができる場合があります

●コンパウンドで磨く

布にコンパウンドを付けドリルを低速で回転させながら磨きます





手前のルーアーヘッド用パイプ立ては奥田氏のオリジナル。便利でっせ!

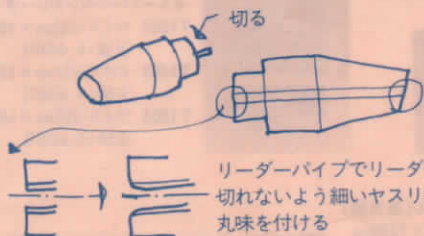
●ヘッドカット及加工

- 万力にはさみ糸のこでカットします
→平面カットの場合は砥石で砥ぎます→コンパウンド

耐水ペーパー100#~1200#

コンパウンド

- コナカットはカットした後丸型のヤスリで削ります



ヨットって本当は
すごく手軽な
スポーツなんだ

ヨット・モーターボートの雑誌

KAZI

月刊/毎月10日発売/定価850円

次号(8月号)は、内外のクルージング・ガイドをはじめ、パワーボート、デイングー、セーリングクルーザーの新艇紹介を中心に種々の話題をお届けします。
7月10日発売!!



7月号好評発売中!

だけど.....
一度始めたら、
その奥深さに
驚くはずさ

セーリング・エキスポートを志す人の研究誌

HELM

隔月刊/奇数月25日発売/
定価800円

Senior Yachting Magazine
HELM

1985
6-7



次号(8-9月号)では、ロス五輪・ヨット競技ですばらしい成績を収めた、アメリカチームにスポットを当て、その勝因を探りたいと思います。
7月25日 発売!!

6-7月号好評発売中!

発行/発売: 舵社

〒105 東京都港区浜松町1-2-17
ストークベル浜松町 ☎03-434-5181